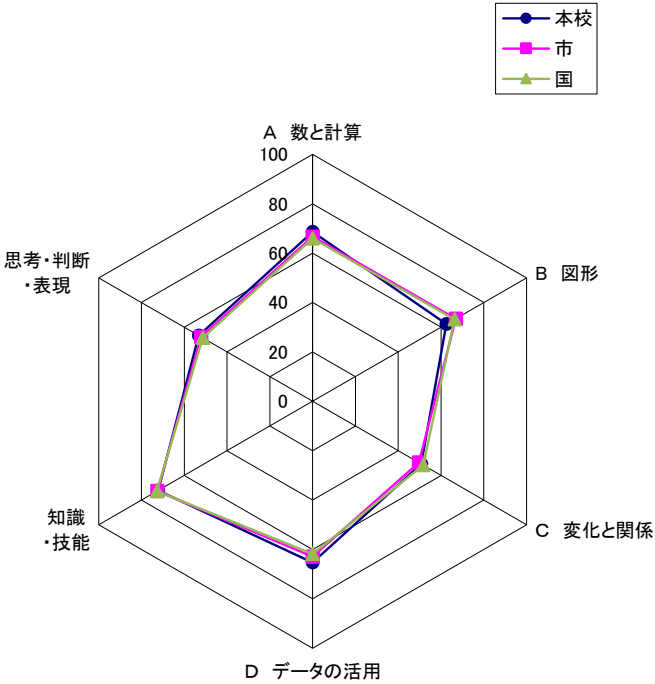


宇都宮市立桜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.6	66.7	66.0
	B 図形	62.5	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	50.8	49.6	51.7
	D データの活用	65.3	62.9	61.8
観点	知識・技能	72.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	53.2	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題は国や市の平均正答率を6ポイント以上上回った。 ●問題場面の数量の関係を捉え、どのような式に表すことができるかどうか考える問題について課題が見られる。	・基礎的な計算については、スマイルネクストドリルを活用しながら学校や家庭でのドリル学習に繰り返し取り組むようにし、確実に身に付けられるようにする。 ・見直しや確かめ算に取り組む機会を繰り返し設定し、定着を図る。 ・朝の学習の時間や学習がんばり週間に、小テストやステップアップテストを実施し、計算技能の定着を確認しながら指導を行う。
B 図形	○作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ問題の正答率は、国を0.9ポイント上回った。 ●円柱・立方体・五角柱の意味や性質についての理解に課題が見られる。	・ICTを活用し、図形について既習事項を確認する機会を設けるとともに、立体の性質や構成の仕方について視覚的に捉えさせ、理解を深めることができるよう指導する。 ・具体物を用いたり、既習事項を生かしたりしながら、問題を自力で解決できるように、段階的に指導を進めていく。
C 変化と関係	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察したり、速さの意味について考えたりする問題の平均正答率は、国の正答率を2.7ポイント上回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数をもとにして記述する問題に課題が見られる。	・道のり、速さ、時間に関する学習課題に繰り返し取り組ませるとともに、概念について視覚的に捉えさせたり、日常における具体的な場面を例示したりして、実感的に捉えられるよう指導する。 ・スマイルネクストドリルを活用し、児童の習熟度に合わせて割合や比例に関する問題に取り組むようにしていく。
D データの活用	○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかを問う問題は国の正答率を15ポイント以上上回った。 ●簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかを問う問題に課題が見られる。	・円グラフや表、折れ線グラフの基本的な読み取りについては、算数だけでなく社会や理科など他教科においてもグラフや表に触れる機会を意図的に設定する。また、数値を読み取ったり、変化の傾向を捉えたりしながら学習課題に取り組ませて、グラフを読み取りデータを活用する力を高めていく。